大豆検査の品質基準を確認

当ＪＡ管内で大豆の検査が10月27日(水)から始まり、検査業務の開始に先がけて、検査の目揃え会が椿川低温倉庫で行われました。検査員が作業手順や品質基準などを確認し、的確な検査の徹底に向けて意識を高めました。

参加者は等級ごとのサンプルを比較しながら、粒の大きさや格付けの基準を確認したほか、実際に管内で収穫された令和3年産の「リュウホウ」を見ながら、被害粒の程度や乾燥状態、収穫作業の進捗状況などについて意見を交わしました。

管内では今年度161戸の生産者が大豆を栽培しており、契約面積は約883ヘクタールに上ります。検査は来年2月まで続く見込みです。

今年産の大豆を見て等級基準を確認する検査員

秋田赤十字乳児院に新米200キロなどを贈呈

11月2日(火)、管内産の新米「あきたこまち」200キロとリンゴ「シナノスイート」20キロ、クッキー30個を当ＪＡから秋田赤十字乳児院に贈りました。農産物の贈呈は8月に続いて10回目で、育成支援を継続することでＳＤＧｓの達成にもつなげていきます。

佐々木崇専務は「おいしい農産物を食べて、食について考える機会にしてほしい。子どもたちがすくすくと育つことを願っている」と呼び掛けました。幼児は佐々木専務から「あきたこまち」の5キロ袋やリンゴを受け取ると、笑顔で持ち運んだり、興味深く顔を近付けたりしていました。贈呈物は給食やおやつで子どもたちに振る舞われました。

「あきたこまち」やリンゴを受け取った子どもたち

NEWS & TOPICS

男鹿地区営農フェア

11月11日(木)から13日(土)、「男鹿地区営農フェア」が男鹿地区営農センターで開かれ、生産者が肥料や農薬などの予約注文とともに、施肥設計や栽培品種などを相談しました。収入保険制度の説明会や「サキホコレ」の試食ＰＲ、払戸農機センターでの農機具の安全講習会なども行われました。

職員は来年度の作付け予定面積や今年度の栽培経過を生産者に質問し、適切な施肥量を計算したり、雑草や病害虫に効果的な農薬を紹介したりしました。水稲の高温障害の影響が出た生産者に、ケイ酸質肥料の投入による土づくりを提案する姿も見られました。3日間の予約注文額は2億2740万円に上りました。

収入保険制度について学ぶ生産者ら

「わかみメロン」平成以降最高の単価を記録

11月16日(火)、当ＪＡメロン部会の実績検討会が若美支店で開かれ、令和3年度の栽培経過や販売実績が報告されました。今年度は6月30日(水)から8月9日(月)までに4万4952ケースを出荷し、販売額は1億290万円となりました。

秀品率は直近7年間で最も高い90・2％に上ったうえ、販売単価は平成以降最も高い前年度比114・1％の1ケース2289円となり、生産者の適切な栽培管理が奏功した結果となりました。

生産振興に寄与した生産者の表彰では、販売の部で竹田勝さん、生産の部で大越春夫さん、高品質安定生産の部で大越博さんが優秀賞に輝きました。

表彰を受ける生産者(左)

★今月のあなたの運勢 2021年12月★ 双子座（5.21～6.21） 運勢は活発な動きを見せています。友人や知人からのアドバイスは耳が痛いものが多そうですが、かなり有効です